

1993年度総会（1993年7月24日 大津市）報告

I. 報告事項

翌年度繰越

-222,482

1. 会員状況（1992.8～1993.7）

新入会	15名
退会	11名
除名	4名
現会員数	286名

4. その他

第15回国際植物科学会議（1993.8.28-9.3, 横浜）を協賛した。

2. 1992年度事業報告

★会報発行 No.46～No.48（計99ページ）

☆第14回全国集会 8月20日～21日
於 山中湖（会報 48号参照）

3. 1992年度会計報告

《収入》

前年度繰越金	-179,426
会費	892,500
別刷代金	89,500
バックナンバー売上	172,100
利息	23,498
全国集会余剰金	159,721
合計	1,157,893

《支出》

会報印刷費	1,124,836
会報発送費	182,710
通信費（切手代）	37,915
文具類	3,060
封筒印刷代	31,854
合計	1,380,375

II. 審議事項

1. 1993年度事業

☆会報発行予定 49号（4月）、50号（8月）、51号（12月）

★全国集会 7月24～25日 滋賀県大津市・琵琶湖研究所

2. 賛助会員制度の設立について

研究会の経済的な基盤を強化するひとつの方策として標記の制度を確立することが懸案となっていたが、役員会での討議の結果、どのような団体からどの程度の賛助会員が見込めるかわからない、等の理由で引き続き検討事項とすることが提案され、了承された。

3. 来年度全国集会開催地

事務局に一任された（その後の交渉の結果、釧路に決定）。

4. その他

事務局の手当て（謝金）を支出することが認められた（金額は、とりあえず年額1万円）。

（文責 角野康郎）

〔編集後記〕

手紙の返事が1年後に届いたという話を聞いて、世の中には何とルーズな人がいるのだらうと呆れたのは昔の話。他人事ではなくなってきました。そんな生活の中で、今年度は会報発行遅延のお詫びばかり書くことになりました。済みません。今回は前号の遅れを半月分取り戻すのが精一杯でした。今年こそは予定どおりに発行したいと思っています。その条件のひとつは原稿が十分に集まることです。会員数はついに300名を突破しました。そして実に多彩な会員構成になっています。さまざまな情報交換の場として本誌を活用されることを期待します。

（角野）

